

ハイリスク母親への親-乳幼児心理療法は無処置より効果はあるが その他の処置よりも効果はない



PIPは逆境を経験している母親の乳幼児アタッチメントの改善に対して潜在的に効果がある

このレビューの目的は？

このキャンベル・システマティック・レビューは、親-乳幼児心理療法（PIP）が持つ、親のメンタルヘルス、親と乳幼児の関係、乳幼児の感情的ウェルビーイングへの効果は無処置とその他の処置と比較する。レビューは、計846人を対象とした8件の無作為化比較試験（RCTs）をまとめる。

逆境を経験している親に対しての親-乳幼児心理療法（PIP）は、無処置と比較して、乳幼児アタッチメントを改善するが、PIPがその他の結果（例：親のメンタルヘルス）に与える効果のエビデンスはない。PIPは、他の処置と比較して、母親と乳幼児のメンタルヘルスを改善する効果がよりあるわけではない。

レビューは何を調べたのか？

親-乳幼児心理療法（PIP）は、乳幼児の感情的、行動的、食事、睡眠の障害などの問題を提起することを目的としている。また、ボンディング困難性や感受性の低さなどの親と乳幼児の関係性についての問題を提起することも目的としている。このように乳幼児と親の関係に焦点を当て、力動的心理療法を扱う心理療法士は、5週間から20週間の間に毎週ミーティングを行うことを典型として、親と乳幼児を一緒に施術する。

このレビューは、PIPが逆境を経験している母親に対して、母親-乳幼児関係における母親と乳幼児のメンタルヘルスを改善することに効果があるか調べる。また、レビューは、母親の乳幼児に対するケア能力と乳幼児のストレスと発達に対するPIPの効果を評価する。

どの調査が含まれているか？

このレビューに含まれた調査は、PIPプログラムの効果を通常処置、無処置、もしくはインタラクティブガイダンス、心理教育、カウンセリングもしくは認知行動療法などのその他の処置の対称グループと比較している。

8件の無作為化比較試験が含まれ、計846人の2才以下の乳幼児を持った親が対象となっている。4件の調査はPIPと無処置もしくは通常の処置と比較し、他の4件は、その他の処置と比較している。この内3件は、米国で行われ、カナダ、スイス、スウェーデンにて1件ずつ行われた。含まれた調査は、母親のみを対象としたもので、全ての母親は、メンタルヘルス問題、家庭内虐待もしくは薬物依存症を抱え、このうち刑務所にいる者も含まれている。



どのぐらい最新の情報が含まれているか？

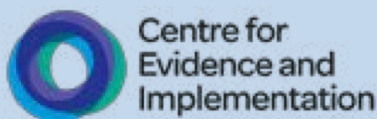
レビューの著者は、2014年1月までに出版された調査を検索した。このキャンベル・システマティック・レビューは2015年3月2日に出版された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを出版する国際的かつ自発的な非営利研究ネットワークである。我々は、社会科学と行動科学において、プログラムについてのエビデンスの質を評価しまとめている。我々の目的は、人々のより良い選択と、より良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、キャンベル・システマティック・レビュー 2015:6 「Parent Infant Psychotherapy for Improving Parental and Infant Mental Health: A Systematic Review」 著者Jane Barlow, Cathy Bennett, Nick Midgley, Soili K. Larkin, and Yinghui Wei (DOI: 10.4073/csr.2015.6) を基にしてBianca Albers (Centre for Evidence and Implementation, Save the Children Australia) により準備が行われた。Anne Mellbye (R-BUP) が要約をデザインし、Tanya Kristiansen (キャンベル共同計画) により編集と作成が行われた。



Centre for
Evidence and
Implementation

PIPはハイリスク母集団に対して効果があるのか？

無処置もしくは通常処置と比較した場合、乳幼児のアタッチメントが安定した数が増えた；より少数の乳幼児のアタッチメントが不安定となった；不安定なアタッチメントから安定へとより変わった。これはフォローアップにより維持された。

母親のメンタルヘルスと内省機能の改善、乳幼児のストレスと発達、もしくは母親-乳幼児インタラクションの質におけるPIPの効果は、無処置もしくは通常処置と変わりはない。

PIPは悪影響を及ぼすか？

含まれた調査の中から、少数の悪影響が見つかった。一つの調査では、PIPを受けた母親の乳幼児は、同じアタッチメントカテゴリーのままか、もしくはより不安定なアタッチメントとなった。

証拠の質はどうだったのか？

このレビューに含まれた調査の証拠の質は低い。少数の調査が含まれ、これらは少ないサンプル数を基にしていて、方法論的なバイアスを検知した。結果はすなわち、慎重に解釈されるべきである。

このレビューの知見は何を意味するのか？

PIPは、逆境を経験している母親の乳幼児のアタッチメントを改善するための潜在的な効果を持つ方法であるが、関係性もしくは親の機能を改善すること、もしくはPIP以外の処置よりも優れているというエビデンスはない。このエビデンスは、方法論的な問題があるため、慎重に扱われるべきである。

インタラクションガイダンスなどの他のモデルとPIPの効果を比較し、評価するためには、質が高く厳格な研究が更に必要である。親のメンタルヘルスや内省機能などの他の潜在的に重要な結果についてのPIPの影響の知見を得るには、更なる研究が必要である。